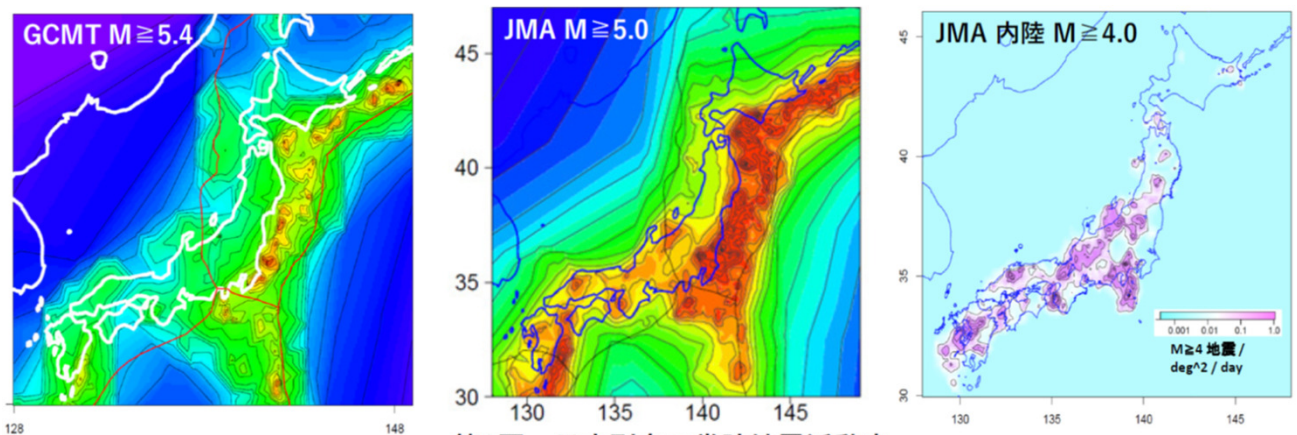
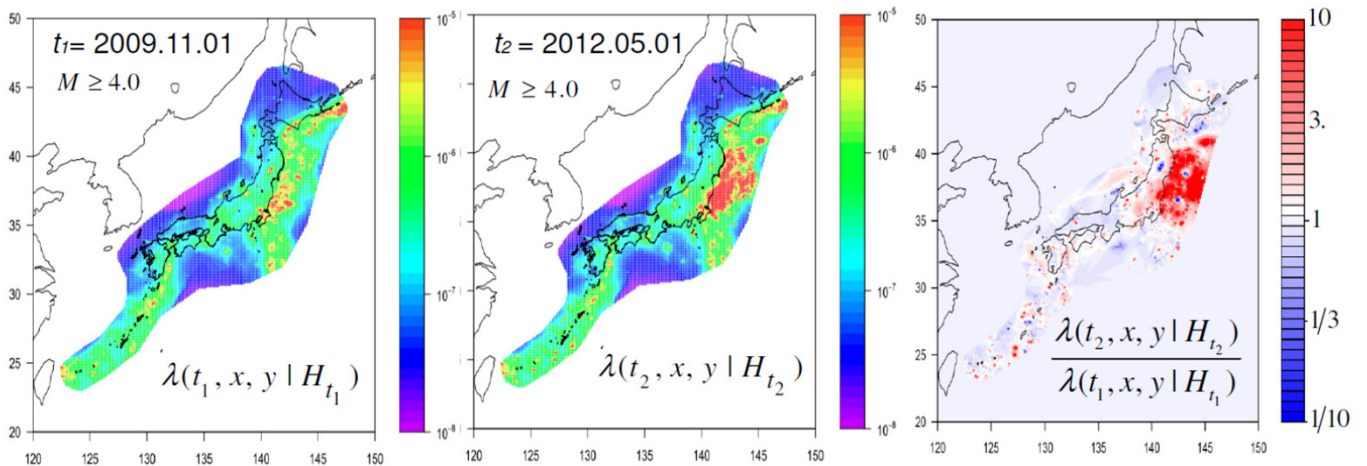


ポイント

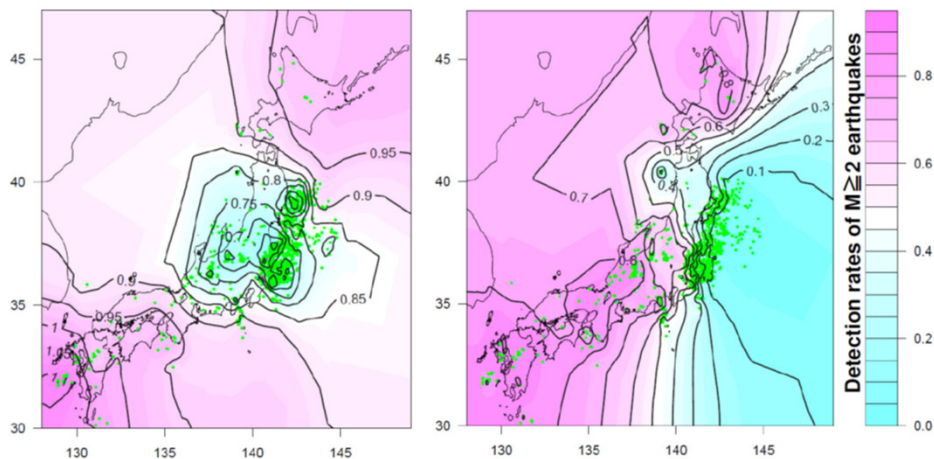
- ① 予め永年確率や各異常現象の確率を準リアルタイムで与える準備・環境を整えることが必要。
- ② 広領域での多項目確率予測式を点過程の危険度拡大率の積で表現する。
- ③ 大中規模地震を予測する危険度拡大率は時間的切迫度や影響地域範囲のスケーリングを示す。
- ④ HIST-ETASモデルで自動的な時空間短期予測する。
- ⑤ 前震の統計的識別法は独立G-R分布のETASモデルより優れた短期予測を与える。
- ⑥ 初期の余震予報は前震の確率予測も与える。
- ⑦ データ欠測によるバイアスの補正ために時空間的検出率を準備する。



第1図. 日本列島の常時地震活動度



第2図. 日本列島の各年月日の地震活動度(左,中)と、その比(右)



第3図. 2011年3月11日本震直後のb値(左)とM ≥ 2.0余震の検出率